

金沢医科大学・医学部-後期

試験日 2023年3月1日 時間 60分 **数学I** **数学II** **数学A** **数学B** (数列, ベクトル)

1 1から8までのそれぞれの整数が書かれたカードが1枚ずつ, 合計8枚入った箱がある. この箱からカードを同時に2枚取り出す操作を n 回 ($n = 1, 2, 3$) 行ったときに, 箱に残っているカードに書かれている整数の最大値を M_n , 最小値を m_n とする. ただし, 取り出したカードはもとに戻さないものとする.

(1) $m_1 = 2$ になる確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

(2) $m_2 = 3$ になる確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

(3) $M_2 - m_2 = 6$ になる確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

(4) $M_3 = 3$ になる確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

2 $0^\circ \leq \theta < 360^\circ$ とする. 関数 $y = \cos 3\theta + \frac{3}{2} \cos 2\theta - 3 \cos \theta + \frac{5}{2}$ ① は

$$y = \square \cos^3 \theta + \square \cos^2 \theta - \square \cos \theta + \square$$

と変形できる. よって, ① は $\theta = \square^\circ$ のとき最大値 \square をとり, $\theta = \square^\circ, \square^\circ$ のとき最小値 $-\frac{\square}{\square}$

をとる. 次に, a を定数とする. $0^\circ \leq \theta < 360^\circ$ のとき, 方程式 $2 \cos 3\theta + 3 \cos 2\theta - 6 \cos \theta - a = 0$ は最大で \square 個の異なる解をもち, このときの a のとり得る値の範囲は $-\frac{\square}{\square} < a < -\square$ である.

3 $a_1 = 1, na_{n+1} = 2(n+1)a_n - 3n^2(n+1)$ で定義される数列 $\{a_n\}$ を考える.

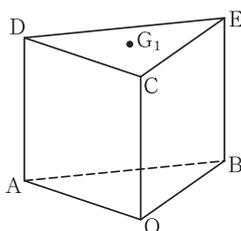
$b_n = \frac{a_n}{n}$ とおくと, $b_1 = \square, b_2 = -\square, b_{n+1} = \square b_n - \square n$ である. さらに, $c_n = b_{n+1} - b_n$ とおくと, $c_1 = -\square, c_n = \square - \square \cdot \square^{n-1}$ である. 以上により, $a_n = n(\square n + \square - \square \cdot \square^{n-1})$ である.

4 図のような, $\angle AOB = \angle DCE = 120^\circ, OA = OB = CD = CE = OC = 2$ である三角柱 OAB-CDE がある. ただし, 平面 OAB と平面 CDE は平行であり, 辺 OC はどちらの平面とも垂直である. $\triangle CDE$ の重心を G_1 と

するとき, $\vec{OG}_1 = \frac{\vec{OA} + \vec{OB} + \square \vec{OC}}{\square}$ であり, $\triangle G_1AB$ の面積は $\frac{\sqrt{\square}}{\square}$ である. 次に, $\triangle G_1AB$ の重心

を G_2 とするとき, $\vec{OG}_2 = \frac{\square \vec{OA} + \square \vec{OB} + \square \vec{OC}}{\square}$ であり, OG_2 の長さは $\frac{\square}{\square}$ である. さらに, 直線

OG_2 と平面 ABED の交点を K とするとき, $\vec{OK} = \frac{\square}{\square} \vec{OG}_2$ である. また, 四面体 OABK の体積は $\frac{\sqrt{\square}}{\square}$ である.



2 金沢医科大学・医学部-後期

1 **【数学A】【確率の雑題】【標準】**

▶解答 (1) $m_1 = 2$ になるのは、1 回目に $\{1, 3\}$ (1 のカードと 3 のカードの意味), $\{1, 4\}$, $\{1, 5\}$, $\{1, 6\}$, $\{1, 7\}$, $\{1, 8\}$ を取り出すときで、求める確率は $\frac{6}{8C_2} = \frac{3}{14}$

(2) m_2 ということは取り出すカードが 4 枚、残るカードが 4 枚である。残る 4 枚のカードの組合せは全部で $8C_4 = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6 \cdot 5}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} = 7 \cdot 2 \cdot 5$ 通りあり、その最小値が 3 になるのは、3 と、4~8 のうちの 3 枚が残るときで、その組合せは $5C_3 = 10$ 通りある。求める確率は $\frac{10}{7 \cdot 2 \cdot 5} = \frac{1}{7}$

(3) $M_2 - m_2 = 6$ のとき $(m_2, M_2) = (1, 7), (2, 8)$ のいずれかである。 $(m_2, M_2) = (1, 7)$ のとき 1, 7 と、2~6 のうちの 2 枚が残るときで $5C_2 = 10$ 通りある。

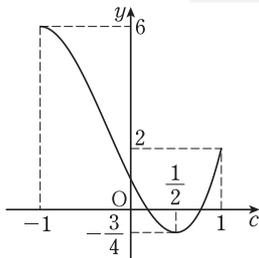
$(m_2, M_2) = (2, 8)$ のときも同様である。求める確率は $\frac{10}{7 \cdot 2 \cdot 5} \cdot 2 = \frac{2}{7}$

(4) M_3 ということは取り出すカードが 6 枚、残るカードが 2 枚である。その組合せは全部で $8C_2 = \frac{8 \cdot 7}{2 \cdot 1} = 4 \cdot 7$ 通りある。 $M_3 = 3$ になるのは 3 と 1, または 3 と 2 が残るときで、求める確率は $\frac{2}{4 \cdot 7} = \frac{1}{14}$

2 **【数学II】【最大値・最小値】【標準】**

▶解答 $\cos \theta = c$ とおく。 $-1 \leq c \leq 1$
 $y = \cos 3\theta + \frac{3}{2} \cos 2\theta - 3 \cos \theta + \frac{5}{2}$ ①
 $= 4c^3 - 3c + \frac{3}{2}(2c^2 - 1) - 3c + \frac{5}{2}$
 $= 4c^3 + 3c^2 - 6c + 1$ ②

$f(c) = 4c^3 + 3c^2 - 6c + 1$ とおく。 $-1 \leq c \leq 1$ である。
 $f'(c) = 12c^2 + 6c - 6 = 6(2c - 1)(c + 1)$
 $f(-1) = 6, f(\frac{1}{2}) = -\frac{3}{4}, f(1) = 2$
 $f(c)$ の最大値は 6 で、それは $c = -1$ すなわち $\theta = 180^\circ$ のときにとる。 $f(c)$ の最小値は $-\frac{3}{4}$ で、それは $c = \frac{1}{2}$ すなわち $\theta = 60^\circ, 300^\circ$ のときにとる。



$2 \cos 3\theta + 3 \cos 2\theta - 6 \cos \theta - a = 0$ ③
 $\cos 3\theta + \frac{3}{2} \cos 2\theta - 3 \cos \theta = \frac{a}{2}$
 $4c^3 + 3c^2 - 6c + 1 = \frac{a+5}{2}$

図は ② のグラフである。 $c = \pm 1$ に対応する θ は 1 つで、 $-1 < c < 1$ の c には 2 つの θ が対応するから、方程式 ③ は最大で 4 個の解をもち、このとき a のとり得る値の範囲は

$-\frac{3}{4} < \frac{a+5}{2} < 2 \quad \therefore -\frac{13}{2} < a < -1$

3 **【数学B】【漸化式】【標準】**

▶解答 $na_{n+1} = 2(n+1)a_n - 3n^2(n+1)$
 $\frac{a_{n+1}}{n+1} = \frac{2a_n}{n} - 3n$
 $b_{n+1} = 2b_n - 3n$ ①
 $b_1 = \frac{a_1}{1} = 1$
 $b_2 = 2b_1 - 3 = -1$

$b_{n+2} = 2b_{n+1} - 3(n+1)$ と ① とで辺ごと引いて
 $b_{n+2} - b_{n+1} = 2(b_{n+1} - b_n) - 3$
 $c_{n+1} = 2c_n - 3$
 $c_{n+1} - 3 = 2(c_n - 3)$
 数列 $\{c_n - 3\}$ は等比数列である。 $c_1 = b_2 - b_1 = -2$
 $c_n - 3 = (c_1 - 3) \cdot 2^{n-1}$
 $c_n = 3 - 5 \cdot 2^{n-1}$

数列 $\{c_n\}$ は数列 $\{b_n\}$ の階差数列だから、 $n \geq 2$ のとき
 $b_n = b_1 + \sum_{k=1}^{n-1} c_k$
 $= b_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (3 - 5 \cdot 2^{k-1})$
 $= 1 + 3(n-1) - 5 \cdot \frac{2^{n-1} - 1}{2-1}$
 $= 3n + 3 - 5 \cdot 2^{n-1}$
 $a_n = n(3n + 3 - 5 \cdot 2^{n-1})$

結果は $n = 1$ でも成り立つ。

4 **【数学B】【ベクトルと図形(空間)】【標準】**

▶解答 $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ とおく。

$|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 2$
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = -2, \vec{a} \cdot \vec{c} = 0, \vec{b} \cdot \vec{c} = 0$
 $\vec{OD} = \vec{a} + \vec{c}, \vec{OE} = \vec{b} + \vec{c}$
 $\vec{OG}_1 = \frac{1}{3}(\vec{OC} + \vec{OD} + \vec{OE}) = \frac{\vec{a} + \vec{b} + 3\vec{c}}{3}$

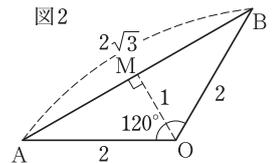
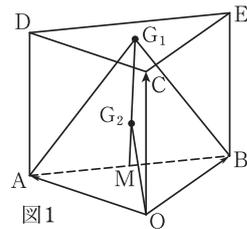


図1

図2

辺 AB の中点を M とする.

$$\begin{aligned} \vec{G_1M} &= \vec{OM} - \vec{OG_1} \\ &= \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2} - \frac{\vec{a} + \vec{b} + 3\vec{c}}{3} \\ &= \frac{1}{6}(\vec{a} + \vec{b} - 6\vec{c}) \\ |\vec{G_1M}|^2 &= \frac{1}{36}(|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + 36|\vec{c}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b}) \\ &= \frac{1}{36}(4 + 4 + 144 - 4) = \frac{37}{9} \\ |\vec{G_1M}| &= \frac{\sqrt{37}}{3} \end{aligned}$$

$\triangle G_1AB$ は二等辺三角形であるから $G_1M \perp AB$ である.

$$\begin{aligned} \triangle G_1AB &= \frac{1}{2} AB \cdot G_1M \\ &= \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{3} \cdot \frac{\sqrt{37}}{3} = \frac{\sqrt{111}}{3} \\ \vec{OG_2} &= \frac{1}{3}(\vec{OG_1} + \vec{OA} + \vec{OB}) \\ &= \frac{1}{3} \left(\frac{\vec{a} + \vec{b} + 3\vec{c}}{3} + \vec{a} + \vec{b} \right) \\ &= \frac{4\vec{a} + 4\vec{b} + 3\vec{c}}{9} \\ |\vec{OG_2}|^2 &= \frac{1}{81}(16|\vec{a}|^2 + 16|\vec{b}|^2 + 9|\vec{c}|^2 + 32\vec{a} \cdot \vec{b}) \\ &= \frac{1}{81}(64 + 64 + 36 - 64) = \frac{100}{81} \\ |\vec{OG_2}| &= \frac{10}{9} \end{aligned}$$

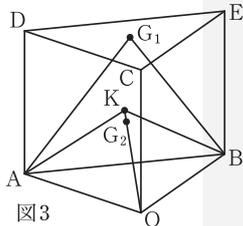


図3

$\vec{OK} = k\vec{OG_2}$ とおく.

$$\vec{OK} = k \cdot \frac{4\vec{a} + 4\vec{b} + 3\vec{c}}{9} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

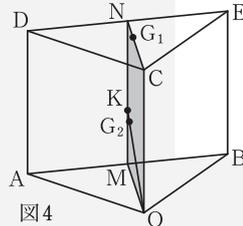


図4

図4を見よ. 三角柱 OAB-CDE を 3 点 O, C, M を通る平面で切ると切断面(図4の網目部分)は DE の中点 N を通る. G_1 は平面 OCNM 上にあることが分かるから, G_2, K も平面 OCNM 上にあることが順次確認出来る. さらに, $MK \perp AB$ である.

$$\vec{OK} = \vec{OM} + \vec{MK} = \frac{1}{2}(\vec{a} + \vec{b}) + \vec{MK} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

$\vec{MK} \parallel \vec{c}$ であるから ① と ② の \vec{a}, \vec{b} の係数を比較して

$$\frac{4k}{9} = \frac{1}{2} \quad \therefore k = \frac{9}{8}$$

$$\vec{OK} = \frac{9}{8}\vec{OG_2} = \frac{1}{2}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} + \frac{3}{8}\vec{c}$$

$\triangle OAB$ を四面体 OABK の底面としたときの高さは $\frac{3}{8}|\vec{c}|$ であるから, 四面体 OABK の体積は

$$\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{3} \cdot 1 \cdot \frac{3}{4} = \frac{\sqrt{3}}{4}$$

◆別解◆ \vec{OK} について

$\vec{OK} = k\vec{OG_2}$ とおく.

$$\begin{aligned} \vec{OK} &= \frac{k}{9}(4\vec{a} + 4\vec{b} + 3\vec{c}) \\ &= \frac{1}{9}(4k\vec{OA} + 4k\vec{OB} + 3k(\vec{OD} - \vec{OA})) \\ &= \frac{k}{9}\vec{OA} + \frac{4k}{9}\vec{OB} + \frac{3k}{9}\vec{OD} \end{aligned}$$

K は平面 ABD 上にあるから

$$\frac{k}{9} + \frac{4k}{9} + \frac{3k}{9} = 1 \quad \therefore k = \frac{9}{8}$$

$$\vec{OK} = \frac{9}{8}\vec{OG_2}$$

◆要の分析 標準レベルの問題であるが, 試験時間が短いわりに計算量が多い.

(坪内, 茅嶋, KK, 安田亨)